



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No.11

令和5年 6月20日

文責：校長 齋藤和彦

「体験的な学習」のよさ・効果・期待。
“てるてるぼうず”に願いを託す子ども

震災後復興、コロナ禍に育ってきた子ども達。私達大人もこの期を生きてきました。

この間、急激に発展し一変したテレワーク、オンライン会合、あらゆる情報が部屋にいながらにして簡単に手に入る情報化社会。

ロケットが月に初着陸してから50余年..今や宇宙旅行チケットが売り出される時代に。



ここまで科学技術が発達した時代にあっても、運動会や体験学習前日になると、子ども達が教室の窓に“てるてるぼうず”を掲げ願いを託すのは、なぜでしょう？

その効き目は、きっと迷信..と分かってはいても、そこには科学的根拠を超えた..子どもの心・願いがあるからです。(神頼み、てるてる頼み)

～「がんばって練習してきたんだから..」

～「ぜったいに、晴れますように..！」

子どもの成長(学び)には、このような感情や自然や命を介した友だちとのかかわり、地域の方々や切実な問題を介した学び、直接体験を通して肌で味わう感覚や感動が必要なのです。

運動会競技の子ども達のキラキラした表情、やり遂げて日焼けした閉会式の頬をつたう汗。赤白点数発表～あの..はじける喜びやポーズ。

各学年の見学体験学習(校外学習)が動き出しています。特別な、子ども達の期待やわくわく感も学習効果を高めます。

体験学習への学年や担任の先生の工夫や配慮の数々には、コロナ禍等々によるこれまでの行事や教育活動の縮小、延期、自粛の中で、『学ぶはずだった感覚』『味わうはずだった感動』を補う努力も含んでいるのです。



校外学習の実施においては、子ども達の安全を最優先に、保護者の皆様に引率等のご協力をお願いする場合があります。



どうぞよろしくお願いいたします。すでにご協力いただいた皆様ありがとうございます。



プール開きをしました。プールボランティアの皆様にも大変お世話になります。

～体験的な学びが → 子どもの未来に～

「百聞は一見に如かず」

この漢詩には、次のような続きがあります。

- ・百見は一考に如かず
- ・百考は一行に如かず
- ・百行は一果に如かず
- ・百果は一認に如かず
- ・百認は一利に如かず
- ・百利は一頁に如かず

【聞くより見ること..見るよりも考えること..考えるよりも行動すること..行動して大切なことは成果をだすこと..成果よりも認めてもらえること..認めてもらえるよりも利益になること..どんな利益よりも社会に貢献できることこそが大切である】という教え。

『気づき・考え・行動する 薫の子』の未来に拓かれている目標や夢・希望を見据えて、体験的な学びを積極的に位置づけていきます。

【父の日】..過ぎてしまいましたが、裏面：エッセイ「とび職の父」に魅る..
～黙して語らぬ父の姿～ その偉大な背中は、父ほどの歳になって、あらためて分かること。自分の背中は、子どもにどのように映っているだろうか。

◆◇ 校長室より ◇◇

「異学年縦割班」ならではの学び

近所の公園で、歳や学年はともかく..友達が連れてきた弟妹の園児をも交えて、何かしらひとつの遊びで夕食までの時間を過ごしたあの頃。

サンダル履きの子も“みそっかす”のちびっ子も出番や活躍した感があるようなルールを考えて..、それでも田んぼ野球は楽しかった。

6/16(金)「フレンドリーDay」は、なかよし班(異学年縦割班)の遊びを通して、下・上級生それぞれに、班内の自分の立場(位置)を自覚して、仲間と同じ時間を過ごす(楽しむ)..貴重な体験活動の時間でした。同学年の教室では、自己中心的にふるまう子も、6年生のリーダーの前では、その姿は通用しません。また、遊びのルールがちょっと不安な子には、学年を問わず、子ども同士の思いやりアンテナが即座に察知して寄り添ってくれます。(そのタイミングは見事でした)

下学年の子が数年経って..、今そうしてもらったことを今度は、してあげる側に育っていくのです。